

令和3年度第2回山口県総合教育会議 議事録

1 日 時 令和4年2月24日(木) 16:00~17:00

2 会 場 山口県庁4階 共用第1会議室

3 開 会 (事務局)

4 知事挨拶

教育委員の皆様方には、平素から本県の教育行政の推進に御尽力をいただいていることに対して、厚く御礼を申し上げます。また、本日は大変お忙しい中、このようにお集まりいただき、感謝申し上げます。

そして、昨年10月に教育委員に御就任された木阪委員におかれては、今回が初めての御出席となる。ぜひ、忌憚のない御意見・御提案を賜りますように、どうぞよろしくお願ひしたい。

御承知のように、今、我が国では、オミクロン株が猛威を振るっている。本県においても、1月9日から岩国市と和木町を対象に「まん延防止等重点措置」が適用され、さらに2月1日からは区域を全県に拡大をして、市町や学校等とも連携しながら、ウイルスの抑え込みに全力で取り組んできた。

こうした中で、県民の皆様、事業者の皆様にも多大な御協力をいただいたお陰で、新規感染者数は安定的に減少しており、今週の日曜日をもって、「まん延防止等重点措置」を解除することができた。この度の第6波においては、学校や就学前施設などの我々の日常生活に密接な場所で、クラスターが多く発生し、これまで雇りにくいとされていた子ども達にも感染が拡がり、一部の学校では、休校等の措置をとることを余儀なくされた。

私は新型コロナウイルスの感染症の影響が長期化する中であっても、子ども達の学びを止めることなく、そして、本県の未来を切り拓いていく人材の育成に取り組んでいくことが重要であると考えている。

「新たな時代の人づくり推進方針」に基づく取組がスタートした今年度は、「乳幼児の育ちと学び支援センター」の設置や、子ども達に多様なモノづくり体験の場を提供する「ワークショップコレクション」を行うなど、幼児教育・保育の充実を図ってきた。また、小学生から高校生を対象に、外国人留学生との対話を通じて、多様な価値感を育むプログラムや、大学生等が社会人とともに課題解決につながるアプリ制作を体験する取組など、自ら課題を発見し、他者と協働しながら解決する力を育成してきた。さらに全国に先駆けて導入した県立学校の1人1台タブレット端末を活用して、県立高校と海外の学校等をオンラインで結び、遠隔授業や生徒間での交流を行ったり、ハイレベルな知識・技能を育成する全県合同の課外授業を実施するなど「やまぐちスマートスクール構想」の取組を進めてきた。

来年度は、今年度の取組を踏まえて、人づくりの取組をさらに充実・強化し

ていくこととしており、昨年秋の会議で御審議いただいた重点取組方針に沿って、高校生による探究活動の発表の場の拡大や、民間事業者が主体的に行う人づくりの取組への支援等の新たな施策に取り組むこととしており、一昨日発表した来年度当初予算（案）に盛り込んだところである。

私は引き続き、県教委や官民を挙げた人づくりの全県的な推進組織である「新たな時代の人づくり推進ネットワーク」としっかり連携・協働を図りながら、未来を担う若者のチャレンジを応援していきたいと考えている。

委員の皆様におかれては、幅広い見地から忌憚のない御意見・御提案を賜りますよう、どうぞお願いしたい。

5 議事概要（議事進行：知事） ※委員発言：● 事務局説明等：○
令和4年度重点取組方針主要関連事業（案）について
○事務局から別添資料に沿って説明。

●佐野委員

令和4年度重点取組方針主要関連事業（案）について、全体としてICTを活用した施策が多く用意されており、ここ数年で急速に社会基盤としてのICT利用が進んでいる状況の中で、ICT技術を積極的に使っていくという方向性が強く感じられる。ICT技術の利用方法や必要性が重要になっているが、子ども達がこれからの時代の中で活躍できるためにも、新しい技術に触れて、感性を磨いてもらいたいと考えている。

それと、不易流行という言葉のとおり、新しい手法は、次々と生まれるが、目的や、なぜそうするのかといった意味合いは、大きく変わらないものだと思う。ICTも便利な手法であるが、使う人が目的に沿って活用しなければ、意味がなくなる。また、単なる流行だけではなく、使いこなす技能を維持することが必要になると感じている。昨年度、県立高校の生徒1人1台タブレット端末の施策を進められ、来年度予算では、ICTを日常的に活用する教育支援やICT支援サポート機能を備えた「やまぐちスマートスクール運営支援センター」の設置等のメンテナンスを行う運営費がしっかり網羅されており、着実に体制整備が図られているように感じている。これらの施策がうまく連携されることを期待している。

また、新型コロナウイルス感染症の影響も3年目を迎えて、早い収束を望んでいるが、新たな方向性に向けた教育活動が必要とされているように感じている。このような世の中や環境であっても、学びを止めない教育活動等を一層進めていただきたいと感じている。今回の施策の中にもそういったものがかなり含まれているので、これも期待している。

また、これまで想定されていなかった環境の変化により、子ども達の心身への影響が心配されている状況である。問題を抱える子ども達の孤独・孤立化や、

体力の低下が心配されている。また、特別な支援を必要とする子ども達が全国的に増えて、山口県でも同様であると感じているので、こちらの対応も来年度の施策に含まれているので、期待している。

最後に、子ども達には、地元山口にしっかりと足場を置きつつ、広い視野を持って様々な経験を積んでいただき、多様な社会で活躍してほしいと考えている。引き続き、次世代を支える子ども達への予算・施策の充実を望んでいる。

●村岡知事

1人1台タブレット端末を導入したことで、教育現場では色々な場面で活用されている。子ども達には、これからの時代に求められてくるので、早めにICT技術に触れて、自ら使いこなしていくことが重要であると認識している。また、学校間をつないだ取組というのも容易にできるが、様々な可能性をぜひ追求していただきたいと思うとともに、そのための体制を構築するためにも、今回の令和4年度予算で特に重点的に配分を行ったところである。ぜひ、試行錯誤の部分が多いところがあると思うが、サポートを行いながら、最大限、メリットを生かしていただきたいと思っている。

それから、やはり新型コロナウイルス感染症の長期化により、子ども達の心身・体力の面など、色々な弊害が出てきているので、よく気を配っていかねばいけないと思っている。県教委でもよく考えていると思うが、我々も予算面でしっかりと対応していきたいと考えている。

●小崎委員

今日は、一点に集中して、お話させていただきたい。資料3ページにある「やまぐち未来アカデミア事業」の「やまぐち若者 MY PROJECT」について、令和4年度も実施していただけるので本当に嬉しく思っている。

実は、昨年末に開催されたリフレクションプログラム（発表会）を見学に行った。この「やまぐち若者MY PROJECT」は、高校生が身の回りの課題をテーマにプロジェクトを立ち上げて実行することを通して学ぶ、まさに実践型探究学習の活動である。そこで、最優秀チームがひとつ選出されて、西日本サミットに出場することになる。県内高校の13校が参加され、私は、その発表を聞きながら、実践型学習を今の高校生やこれからの高校生にも経験してもらいたいと考えている。

この発表の中で、ある女子生徒が「このプロジェクトを通して、自分は駆け抜ける大変さ、維持することの難しさを学んだ」と話されていた。私は、その言葉に共感するとともに、名言だと思った。どっかの標語かと思った。彼女がプロジェクトを進めていくうちに、次々とやりたいことが浮かんできたが、時間がない中でも、取り組んでいかないといけないということから、駆け抜けていく感じが伝わってきた。また、プロジェクトが進んだとしても、それを続け

ていくことの難しさを感じ、彼女は色々なことを学んだと感じた。私は、この女子生徒のように、多くの高校生が仲間と思いを共有したり、対立したり、また、地域を巻き込んだり、周りの大人たちに理解してもらうためには、どのように行動すれば良いのかということ、多く悩んだり考えたりすることが、大切であると思っている。そしてプロジェクトを実践していくことで、若者たちが成長し、自信に繋がっていくのだと思っている。

今、このような探究活動を実践している高校生が本当に増えてきているので、できるだけ多くの人に知っていただくためにも、先ほど知事が言われたように、高校生が輝ける場や、探究活動を発表する場をたくさん作っていただきたいと考えている。

また、「やまぐち若者MY PROJECT」の他に、「やまぐち探究サミット」も開催いただけるので、大変ありがたく思っていると同時に、県としても、ぜひ高校生たちを応援していただきたいと考えている。

最後に、昨年9月の会議でもお願いしたが、ぜひ知事には、中学校に訪問いただいて、中学生と話をする場を設けていただきたいと考えている。これからの山口県や時代を担っていくのは、中高生だと思っているので、まずは中学生に対して、勇気・やる気・自信をつけていただきたいと思っている。

●村岡知事

ぜひ、県教委で調整をしていただき、中学校・高校に訪問したいと考えている。そこで、中高生とお話をする中で、色々な気づき・感じることもあると思うので、ぜひ訪問したいと思っている。

あと、お話いただいた「やまぐち若者MY PROJECT」についても大変、評価いただいているので、本当に嬉しく思っている。地域・社会が抱える課題を、子ども達が自分たちで発見をして、他の方と協働して課題解決をする力が、これからの社会でますます必要であると考えており、本事業はそのような力を身につけてもらうためのプロジェクトである。今、お話があったように、参加した高校生から、そのようなものを感じていただいたので、大変、嬉しく思った。私も、そのような能力が大切であると思っているし、新型コロナウイルス感染症により、社会との関わりや、学校内の活動が制約されており、活動の機会が奪われている状況であるので、このようなプロジェクトを通して、子ども達自身が活動し、課題解決能力を身につけるためにも、これからも活動・発表する場を提供していきたいと考えている。来年度予算でも計上しているので、さらにブラッシュアップして、自らが取り組んでいくことの大切さや、協働することの難しさも含めて、しっかりと力を身につけていただきたいと考えている。

● 穎原委員

令和4年度重点取組方針主要関連事業（案）について、2点ほど述べさせていただきます。

1点目は、今年度の「クリエイティブ・キッズ育成事業」におけるイベントで、子ども達に人気のあるゲームやおもちゃを使用し、プログラミング学習やデザイン、クラフトを行っていたり、またTwitter等で開催情報を発信していた。子ども達の関心がある教材を使用し、意欲的に学んでもらえるような工夫がされていたので、とても良い取組であると感じた。

2点目は、ICTの活用について、「やまぐちICT新たな学びラボ」サイトに、県立高校の取組として、「生徒の健康管理のデジタル化」、「ICTを活用した授業」、「1人1台タブレット端末を使用した探究学習の進め方」、さらには「コミュニケーションアプリを使った地域との情報共有」等についての動画が公開されていた。実際に導入を進めている先生が、動画内で説明をしているので、学校内のICT化を進める上でも、それぞれの動画がとても参考になるのではないかと感じた。1人1台タブレット端末が整備された後、小学生が自宅でタブレット端末を使いこなして、学習を進めていると伺っている。コロナ禍の中で、自宅におけるICT活用学習のウエイトが増していると思うので、さらに内容の充実を図っていただきたいと考えている。

引き続き、それぞれの教育事業が円滑に進められていくことを期待している。

● 村岡知事

子ども達のプログラミング教育については、早い段階から取り入れるために教育課程内で位置づけられている。そのためにも、環境整備を推進するとともに、県内の子ども達に対応できる能力を、身につけていただきたいと考えている。

次に、1人1台タブレット端末は、もともと新型コロナウイルス感染症の影響により学校が休校になっても、学びを止めないために導入した経緯があるので、その意図に沿った活用も含めて進めていただきたいと考えている。ぜひ、より良い環境整備に向けて、ブラッシュアップをしていきたいと考えている。

● 和泉委員

知事のリーダーシップにより、1人1台タブレット端末が全国に先駆けて導入され、今年度、いくつかの学校に訪問させていただいたが、想像以上に子ども達にも浸透し始めており、積極的に使用している姿が見られて、大変素晴らしいと感じている。タブレット端末の活用は、これからますます重要になってくると考えている。そこで、ある先生が、「タブレットを使用するのは良いことだと思うが、タブレット端末だけを見ており、子ども同士のコミュニケーションが無くなったような気がする」と話されており、逆の効果も出ている。や

はり、活用する学校の先生方が研修を受けて、タブレット端末を使用する際の授業方法等を勉強していくことも重要であると感じている。

令和4年度重点取組方針主要関連事業（案）に、地域の方との連携・活動等の記載もある。やはり中心は学校であるので、現場の先生が、授業や活動等にも集中できるような支援が必要であると考えている。また、「やまぐち部活動応援事業」の部活動支援員の配置について、先生方を支えていく視点からも市町教育委員会と連携するとともに、県としてもリーダーシップを発揮していただきたいと思っている。

「統合型校務支援システム管理運営費・学校管理指導費」について、滞りなく県全体に導入が進むと、先生方の働き方改革、多忙化の解消につながっていくと考えている。

高校も来年度から新学習指導要領に移行し、今後、大学入学共通テストでも教科「情報」が追加され、現場の先生方も色々な対応が必要になってくる。そこで、現場の先生方が授業力向上に向けた研修等に集中するためにも、多忙化解消に向けた対応策が必要であると考えている。

また、中学・高校・大学受験について、県外の学校を受験する生徒が多いので、県内の大学進学率もなかなか伸び悩んでいるところでもあるが、ぜひ小中高・校種間連携を進めながら、山口県教育の魅力を発信していただきたい。

●村岡知事

「統合型校務支援システム管理運営費・学校管理指導費」について、現場の先生方の負担をできるだけ減らし、本来の業務に専念してもらおうという意味でも、「統合型校務支援システム」を導入することで、かなり改善が図られてくると考えている。また、様々なサポート体制を構築するためにも、県教委と連携を取りながら整備していきたいと考えている。

新学習指導要領のカリキュラム変更等により、ICT活用など先生方の負担が大きくなっていくが、環境面ではしっかりと整備していきたいと考えている。

また、県内進学に向けて、「大学リーグやまぐち」を中心に、子ども達に対して、魅力を発信しているところである。今後も引き続き、大学等と連携をしながら取り組んでいきたいと考えている。

●木阪委員

教育委員となってまだ5ヶ月しか経っておらず、他の委員と比べて、現場研修の回数が少ないので、月1回程度、学校を訪問し授業を見学している状況である。そこで、ICTを活用した授業について、見学をする度に先生の指導力・生徒の活用能力が高まってきているのに大変驚いている。正直、ここまでICT教育が進んできているのかということが、実際の感想であり、今の中高生たちが、着実にスキルを学んでいることに対して、本当にすごい財産であると感じ

じている。職場体験等で、事業者が高校生たちに指導・助言をしているが、ICT分野では、おそらく3～5年後には逆転され、中高生の方がその事業者に対して教えるぐらいのレベルになるのではないかと感じている。

また、「やまぐちハイスクールブランド創出事業」について、ただ単に地元の事業所と高校生がタイアップして、商売のノウハウを学ぶというところで収めるには、あまりにも惜しいと考えている。新型コロナウイルス感染症の影響で、疲弊・諦め感のある中小零細の事業者がぬるま湯に浸かっているところに、熱湯をかけてびっくりさせるためにも、熱い思いを持った若者たちとの交流が必要になってくる。難しいかもしれないが、事業承継等に結びつくような取組に展開できたら面白いと考えている。簡単には実行できないことは分かるが、先行きが不透明な世の中で、色々な方々を刺激しながら、県全体で向上・推進していくためにも、教育は大変重要であると考えている。

●村岡知事

「やまぐちハイスクールブランド創出事業」について、地域の皆様方にも御支援いただきながら、地域全体として成長していくとともに、子ども達の能力を伸ばすことを核として、より大きな成果に結びつくような取組にしていきたいと考えている。

それからICT活用について、私も実際に小学校に訪問したが、やはり木阪委員が言われるとおり、小学生は飲み込みが速く、ICT活用能力が長けている。また、デジタルネイティブ世代で、本当にすぐに活用しており、学ぶ力が優れていると感じている。そのためにも、しっかりと環境を整えていけば、ますます良い効果も得られると思っているので、引き続き取り組んでいきたいと考えている。

●繁吉教育長

まず最初に、知事には令和4年度予算編成に当たり、厳しい財政状況の中、山口県の未来を担う子ども達の教育の充実のために必要な予算措置をしていただき、本当に感謝申し上げます。

特に、新型コロナウイルス感染症の関係予算について、児童・生徒が安心・安全に学べる学校環境の確保をするために、PCR検査や消毒液等の学校の感染症対策に係る予算を確保していただき、本当にありがたく思っている。

先ほどの知事挨拶の中でもあったが、非常に感染力の強いオミクロン株への対応として、県立学校では地域の感染レベルをレベル3相当に引き上げて、現在も感染防止対策を徹底しているところである。

先日、2月20日をもって、「まん延防止等重点措置」が解除となったが、県教委では引き続き、昨年度に整備した教育のICT環境も生かしながら、児童生徒の学びを止めることがないように、感染防止対策をしっかりと徹底してい

きたいと考えている。

さて、私からは「やまぐちスマートスクール構想」の推進と「県立高校将来構想」に基づく高校改革について、2点、お話をさせていただきたい。

まず、県教委では、昨年度、整備したICT環境を生かして、子ども達の可能性を拓ける「やまぐちスマートスクール構想」を推進しているが、これは、知事が進めている「山口県新たな時代の人づくり推進方針」に掲げた教育のICT化を推進していく取組のひとつであると考えている。来年度は、本方針を着実に進め、これまで培ってきた教育実践を、ICTを活用した新たな教育活動と組み合わせながら、様々な場面において、子ども達がより効果的な学習を行うことができる教育の実現に、取り組んでいきたいと考えている。具体的には、先ほど、事務局からの説明の中にもあったが、ICT機器に不慣れな先生を支援するために、機器の故障対応やサポートを強化していくための「やまぐちスマートスクール運営支援センター」を設置し、全国トップクラスを誇る本県のICT環境をバックアップする体制を整えていきたいと考えている。

また、総合支援学校において、障害等を持った子ども達が、仮想空間・バーチャルリアリティーで社会体験活動を実感できるように環境を整備し、子ども達の自立と社会参画を促進していく取組を行いたいと考えている。

こうした新たな取組を含めて、全国に先駆けて整備をした1人1台タブレット端末など、本県の教育環境の強みを生かして、教育におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）を進化させて、令和の時代にふさわしい、山口県ならではの新たな時代に即した教育を推進していきたいと考えている。

次に、「第3期県立高校将来構想」については、中・長期的な視点に立って、広く県民の方々からの御意見を聞きながら、1年間をかけて検討を進めてきたところであり、この3月に構想を策定する予定となっている。来年度は、再編整備に関する5年単位の実施計画を策定する予定としており、この計画に基づき、施設の長寿命化や教員の配置等の見直しを計画的に行うことで、生徒や保護者の期待に応える学校づくりに努めていきたいと考えている。私としては、山口県の15年先を描いた高校改革に取り組むことで、子ども達が山口県で教育を受けて良かったと思えるように、全力で取り組んでまいりたいと考えている。

その他、開設2年目となる「山口県乳幼児の育ちと学び支援センター」を拠点とし、研修や訪問支援体制の拡充を図るなど、幼児教育・保育の充実にも努めていきたいと考えている。

県教委としては、来年度も知事部局と緊密に連携をして、新型コロナウイルス感染症や教育のICT化等の急激な社会変化に対して、迅速かつ的確に対応しながら、本県の将来を見据えた新しい時代の学校像をデザインし、未来を担う子ども達の教育環境を充実・発展していきたいと考えている。そのためにも、知事には、これまで以上に御支援をよろしくお願いしたいと思っている。

●村岡知事

教育は重要であると考えているので、これまで以上にしっかり対応していきたい。

来年度は、県立高校将来構想について、非常に大きな方針を決定する年であるので、大変だと思うが、我々もしっかりバックアップしていきたいと思っている。

また、「やまぐちスマートスクール運営支援センター」を設置することで、「やまぐちスマートスクール構想」の取組を着実に推進していただきたいと考えている。このような支援体制を整備することで、より一層、強化されると思うので、大変心強いと感じている。そのためにも、新型コロナウイルス感染症の対応で、現場の先生方も大変だと思うが、予算面ではしっかりとバックアップして、万全な対応をしていきたい。

最後に、私の方から一言、御挨拶を申し上げる。本日は、貴重な御意見・御提言を賜り、改めて感謝申し上げます。

私としては、本日、伺った御意見をしっかりと踏まえながら、関連する施策に取り組んでいき、目に見える成果を上げることができるよう、進めていきたいと思っている。

県教委においても、引き続き、積極的な取組と効果的な事業実施に努めていただきたい。

引き続き、皆様方の御協力を賜りますようお願いして、まとめの御挨拶させていただきます。

6 閉会（事務局）

（以上）

※ 上記については、事務局がまとめたものです。